

### Ⅲ. 『B型事業所チャレンジ実習』の実施報告

1. 「チャレンジ実習」の概要 .....	1
2. 「チャレンジ実習」の実施状況および参加者の概要 .....	8
3. チャレンジ実習の効果検証 .....	9
3-1. 本人の「意欲」と「自信」の変化.....	9
3-2. チャレンジ実習の協力者への質問紙調査.....	18
3-3. チャレンジ実習後の追跡調査 .....	20

## 1. 「チャレンジ実習」の概要

### ■ チャレンジ実習とは、

B型事業所チャレンジ実習（以下、チャレンジ実習）は、いわゆる職場体験的な実習である。原則として3日間、1日あたりの体験時間は3時間程度に設定する。実習先は、見学・説明会の訪問先から実習を希望する者（以下、実習生）が選択し、企業に了解を得て決定する。実習中の仕事内容は、現に障がいのある社員等が行っている業務を中心に、企業に選定してもらう。

チャレンジ実習の一番の目的は「働く」ことのイメージ形成であり、当該企業に就職することを前提としていない。したがって、現在の求人の有無、通勤手段の確保等は特に考慮しない。そのことについては、実習前に、実習生（事業所）、企業の双方に十分に説明し、了解を得た。

### ■ チャレンジ実習までの流れ

見学・説明会の終了時に参加者と事業所に、実習の希望を確認。希望する者については、実習先企業と実習期間を調整したうえで、以下の手続きを同時並行で実施した。対象者への説明、事業所との打ち合わせは実行部会の調査員が中心に、企業担当者との打ち合わせは移行支援コーディネーターを中心に行った（詳細については資料1参照）。

#### 対象者への説明

- ・実習に必要な物、心がまえについて(資料2)
- ・情報提供書(資料3)の提出について同意
- ・実習時の調査内容
- ・作業日報(資料4)の記入について

#### 事業所との 打ち合わせ

- ・情報提供書の作成依頼
- ・実習時の調査内容
- ・実習終了後、支援者向けアンケートの実施について
- ・協定書の作成について

#### 企業担当者 との打ち合わせ

- ・作業内容、集合時間、必要な物について
- ・情報提供書の提出について
- ・協定書の作成について
- ・実習日誌へのコメント記入について

## ■ チャレンジ実習の内容

チャレンジ実習の実働時間は概ね9時～12時。始業前に集合し、調査員による体調確認を行ったうえで出勤する。集合場所までは各事業所に送迎を依頼。実習中は必ず1名以上の調査員が同行し、必要時に支援を行える体制を整える。業務終了後に、作業日報の記入と、聞き取り調査によって振り返りを行った。



## ■ 調査員の役割

チャレンジ実習中は、実行部会のメンバーである調査員が同行し、実習生と企業担当者との仲介、支援を行う。

### 実習生に対して

- ・報告や相談の促しなどの助言
- ・体調確認
- ・作業日報の記入依頼
- ・聞き取り調査  
（実習開始前、各日の終了時）

### 企業担当者に対して

- ・作業環境の調整、作業内容等の相談
- ・休憩のタイミング等の相談
- ・作業日報へのコメントの依頼
- ・実習終了後のアンケートの依頼

## チャレンジ実習の流れ

	実施項目	担 当
1	合同企業見学・説明会	
2	実習について本人の意思確認	事業所
3	対象者及び支援者にチャレンジ実習の説明 ◎「チャレンジ実習で気をつけること」に沿って、体調管理、準備する物、身だしなみなどの基本的な注意事項を説明 ◎情報提供書の作成について ◎協定書について ◎実習日誌の記入について ◎調査項目について ◎「説明時」の調査	調査員
4	実習日程の調整（企業・事業所）	振興センター 調査員
5	実習についての打合せ（企業・事業所） ◎準備する物 ◎作業内容 ◎服装 ◎集合時間	振興センター 調査員
6	情報提供書の作成と企業への提出	作成：事業所 提出：調査員
7	協定書の作成と締結 ◎作成 ◎押印依頼 ◎締結（企業・本人・振興センターの三者）	振興センター 調査員

8	<p>実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎実習開始前にオリエンテーションを実施（アスワン山荘）</li> <li>◎初日の朝の調査</li> <li>◎2日目終了後の調査</li> <li>◎3日目終了後、振り返りと調査</li> <li>◎毎日対象者が実習日誌を記入し、企業の方からコメントをいただく。</li> <li>◎支援内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者と従業員のコミュニケーションの仲介</li> <li>・対象者への助言（報告の促し等）</li> <li>・体調確認</li> <li>・作業量の調整及び時間の管理</li> </ul> </li> </ul>	調査員
---	---	-----

## 体験実習に向けて

体験実習に参加いただき、ありがとうございます。  
企業で体験実習を行うのに、必要なことを確認しましょう！

### 【 氏 名 】

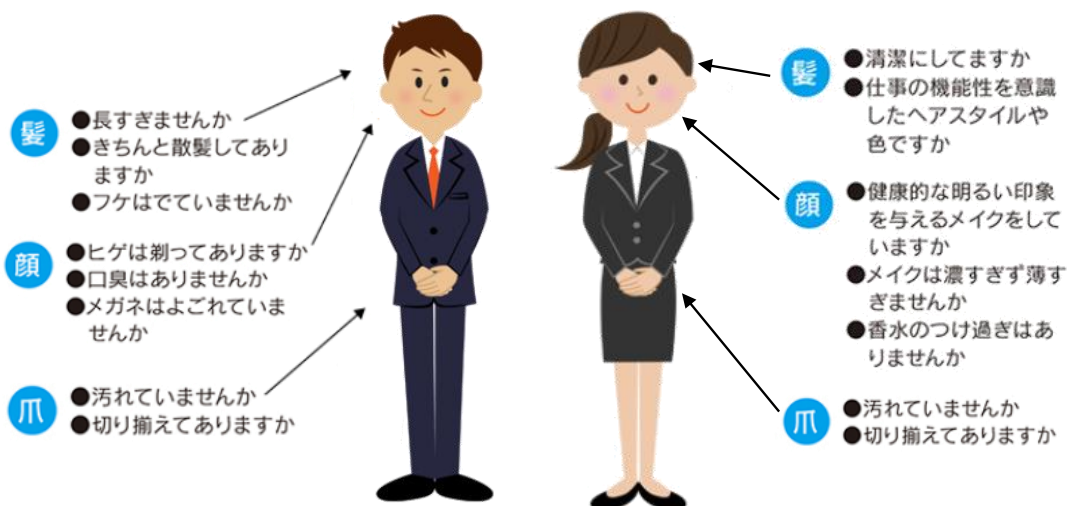
【 実 習 日 】      月      日(    )    ~    月      日(    )

### 【 企 業 名 】

### 【 準備する物 】

- メモ帳
- ペン
- ティッシュ・ハンカチ
- 飲み物
- 普段のんでいる薬

### 【 身だしなみ 】



### 【 気を付けること 】

- あいさつ
- 返事
- 安全に注意する
- 支援者と一緒に行動する

## チャレンジ実習情報提供書

## 【取扱注意】

B型事業所一般就労移行チャレンジ事業

ふりがな		性別
実習生氏名		
生年月日	S・H 年 月 日生 ( 歳)	
現住所		
障害種別	身体(視・聴・肢・内・他)・知的・精神・その他( )	

## ■ 実習にあたり配慮してもらいたい事項(障害特性・性格等)

作業の選択	
指示・指導	
コミュニケーション	
その他	

## ■ 経験したことがある主な作業(学校での経験を含む)

--

記入者	事業所	
	氏名	

## チャレンジ実習日誌

日にち: 月 日 曜日

名前

出勤した時間 :

退社した時間 :

実習前	体調	◎	○	△	×
	持ち物	◎	○	△	×
	身だしなみ	◎	○	△	×

実習中	あいさつ	◎	○	△	×
	返事	◎	○	△	×
	質問	◎	○	△	×
	相談	◎	○	△	×
	報告	◎	○	△	×
	作業	◎	○	△	×

今日の作業内容	
---------	--

感想	
----	--

コメント		印
------	--	---



## 2. 「チャレンジ実習」の実施状況および参加者の概要

### ■ チャレンジ実習のスケジュールおよび実習企業

実習企業	実習期間	参加者	主な業務内容
アスワン山荘	令和元年12月2日(月)～4日(水)	2名	居室のシーツ交換
西日本山桜	令和元年12月 9日(月)～11日(水)	3名	自動車部品の組み立て
シモハナ物流	令和元年12月18日(水)～20日(金)	2名	段ボールの解体・回収
アルク大内店	令和2年1月27日(月)～29日(水)	1名	店舗の品出し
出光興産	令和2年 2月 3日(月)～ 5日(水)	4名	グループ就労 (清掃、イチゴのハウス栽培等)
テルモ山口	令和2年2月12日(水)～14日(金)	1名	グループ就労 (清掃等)

※テルモ山口の1名は2か所目の実習

### ■ 実習生の概要

ケース	年齢	性別	主たる 障害種別	実習企業	実習期間
A	27	男	精神障害	アスワン山荘	12月2日(月)～4日(水)
B	39	男	精神障害	アスワン山荘	12月2日(月)～4日(水)
C	35	女	知的障害	西日本山桜	12月9日(月)～11日(水)
D	24	男	知的障害	西日本山桜	12月9日(月)～11日(水)
E	40	男	知的障害	西日本山桜	12月9日(月)～11日(水)
F	25	男	知的障害	シモハナ物流	12月18日(水)～20日(金)
G	18	男	知的障害	シモハナ物流	12月18日(水)～20日(金)
H	40	男	精神障害	アルク大内店	1月27日(月)～29日(水)
I	38	男	精神障害	出光興産	2月3日(月)～5日(水)
J	19	女	知的障害	出光興産	2月3日(月)～5日(水)
K	55	男	精神障害	出光興産	2月3日(月)～5日(水)
L	19	男	知的障害	出光興産	2月3日(月)～5日(水)

### 3. チャレンジ実習の効果検証

#### 3-1. 本人の「意欲」と「自信」の変化

##### 1) 一般就労に対する「意欲」

###### (調査方法)

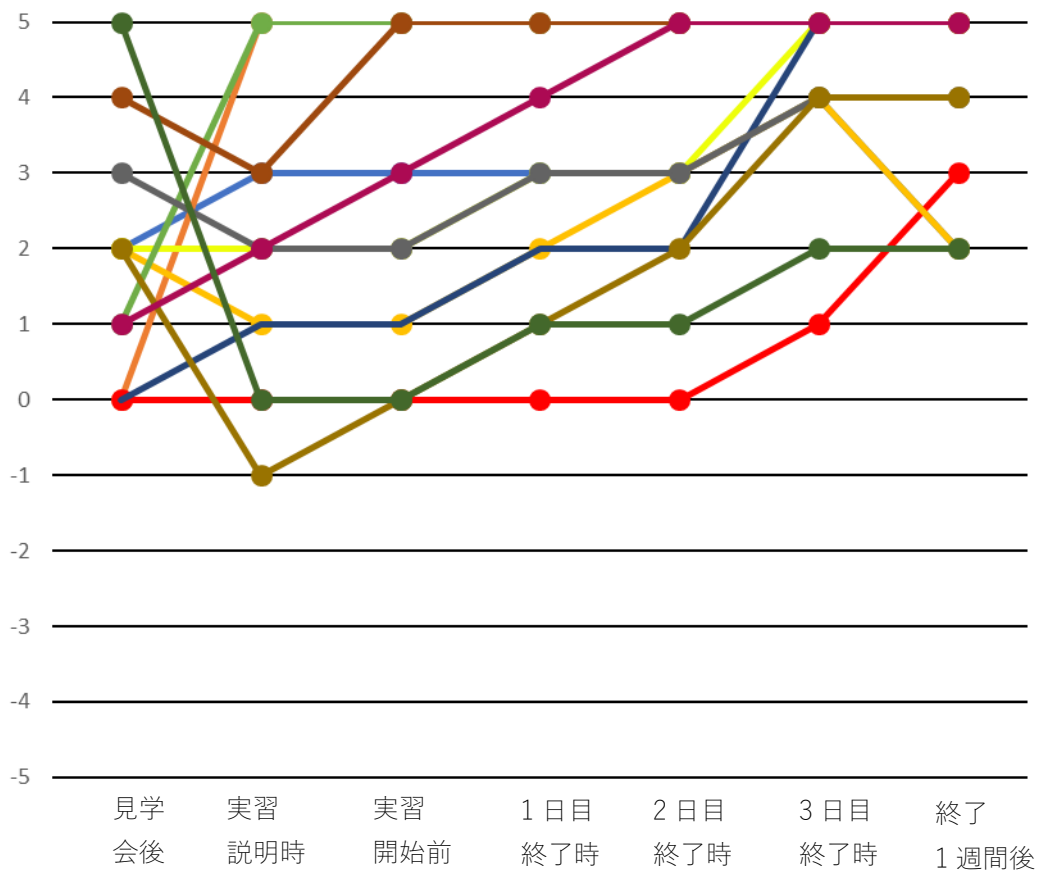
「あなたは『一般就労』したいと思いますか」の問いかけに対し、「どちらともいえない」を「0」として、「一般就労したい」を「+1」～「+5」、「一般就労したくない」を「-1」～「-5」で選択してもらった。

調査は調査員による1対1の聞き取りで行った。グラフを見せながら、「前回の聞き取りと比べて…」と問いかけることで、対象者自身が「変化」を意識して回答できるよう配慮した。調査時点は、以下の7点である。

- ① 見学会後 : 合同見学会に参加した日の終了後
- ② 説明時 : チャレンジ実習について説明した時
- ③ 実習開始前 : チャレンジ実習の初日の開始前
- ④ 実習1日目 : チャレンジ実習1日目終了時
- ⑤ 実習2日目 : チャレンジ実習2日目終了時
- ⑥ 実習3日目 : チャレンジ実習3日目終了時
- ⑦ 1週間後 : チャレンジ実習終了1週間後

###### (結果)

ケース	見学会後	実習説明時	実習開始前	1日目 終了時	2日目 終了時	3日目 終了時	1週間後
A	2	3	3	3	3	4	2
B	0	5	5	5	5	5	5
C	0	0	0	0	0	1	3
D	2	1	1	2	3	4	2
E	2	2	2	3	3	5	5
F	1	5	5	5	5	5	5
G	0	1	1	2	2	5	5
H	4	3	5	5	5	5	5
I	3	2	2	3	3	4	4
J	2	-1	0	1	2	4	4
K	1	2	3	4	5	5	5
L	5	0	0	1	1	2	2



## 2) 一般就労に向けての自信

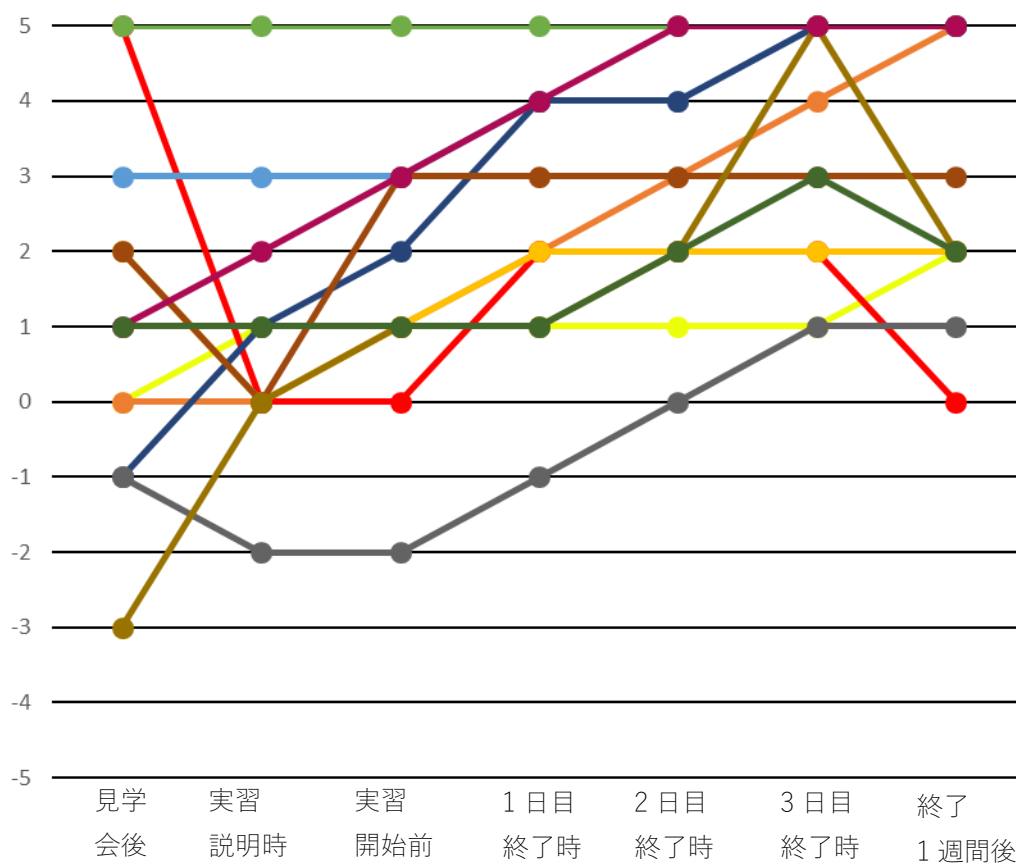
### (調査方法)

「あなたは『一般就労』する自信がどのくらいありますか」の問いかけに対し、「どちらともいえない」を「0」として、「一般就労する自信がある」を「+1」～「+5」、「一般就労する自信がない」を「-1」～「-5」で選択してもらった。

調査方法および調査時点は、「1. 一般就労への意欲」と同様である。

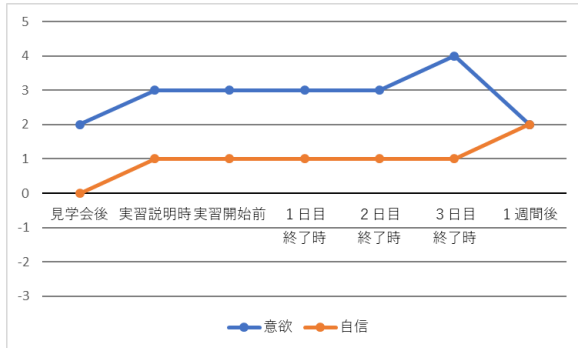
(結果)

ケース	見学会後	実習説明時	実習開始前	1日目終了時	2日目終了時	3日目終了時	1週間後
A	0	1	1	1	1	1	2
B	0	0	1	2	3	4	5
C	5	0	0	2	2	2	0
D	2	0	1	2	2	2	2
E	3	3	3	4	4	5	5
F	5	5	5	5	5	5	5
G	-1	1	2	4	4	5	5
H	2	0	3	3	3	3	3
I	-1	-2	-2	-1	0	1	1
J	-3	0	1	1	2	5	2
K	1	2	3	4	5	5	5
L	1	1	1	1	2	3	2

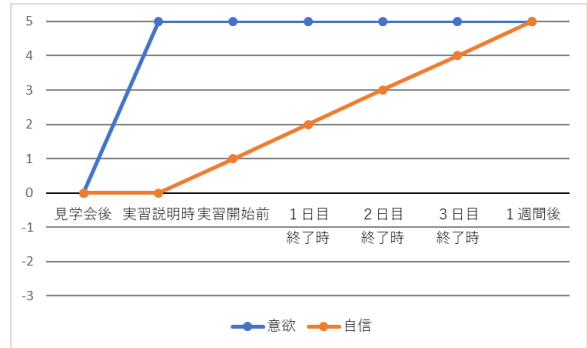


### 3) 「意欲」と「自信」との関係

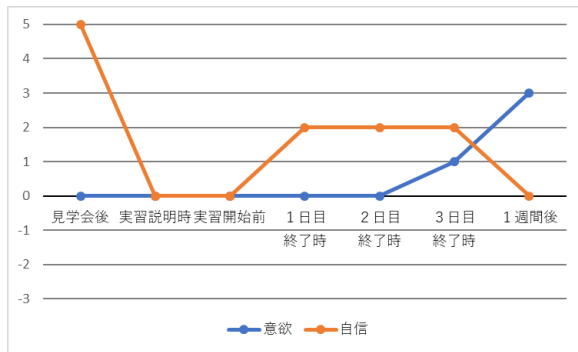
【ケース A】



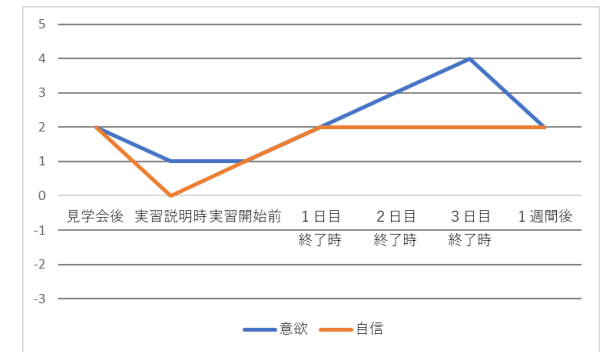
【ケース B】



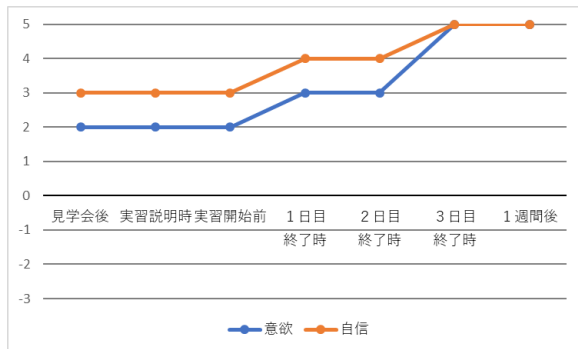
【ケース C】



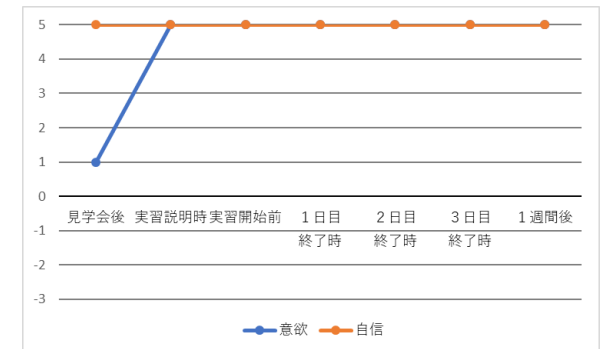
【ケース D】



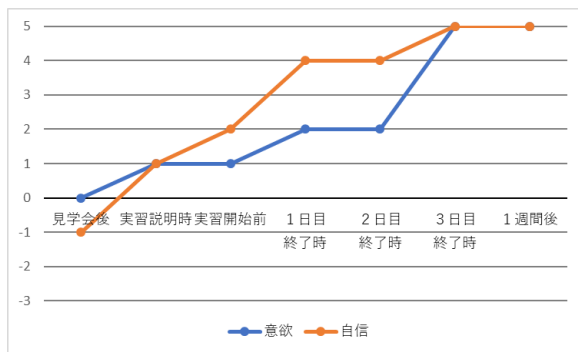
【ケース E】



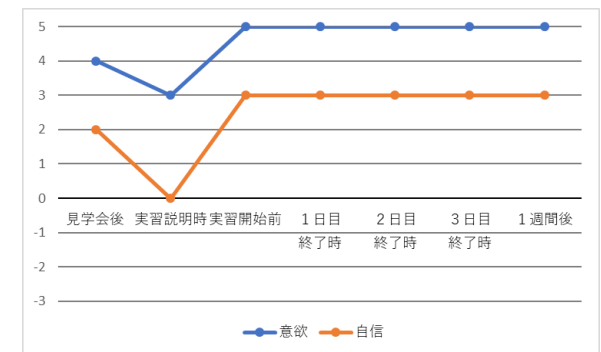
【ケース F】



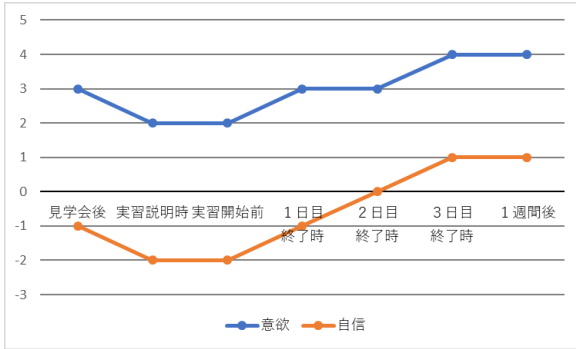
【ケース G】



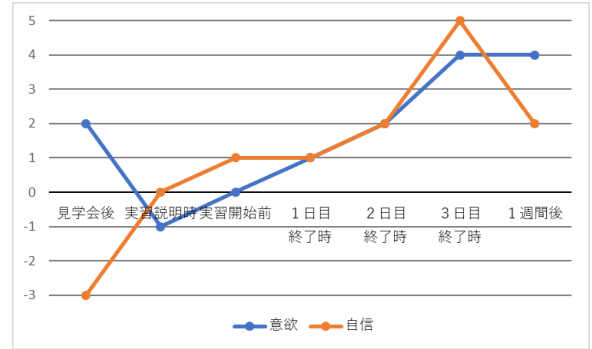
【ケース H】



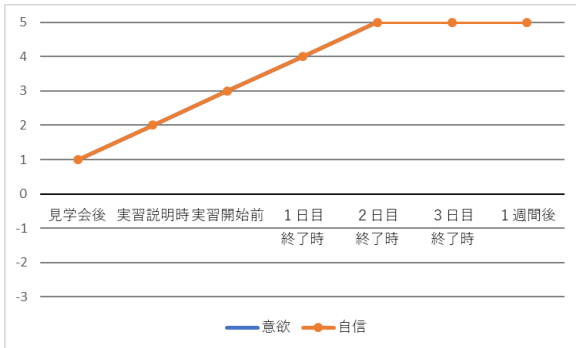
【ケース I】



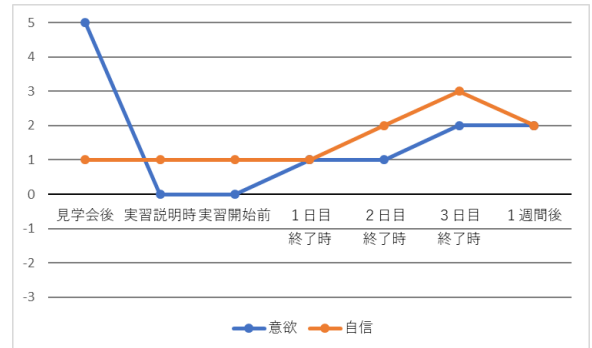
【ケース J】



【ケース K】



【ケース L】



#### 4) 聞き取り調査の内容

1. 2. の調査の後に、「前回に比べてスコアが上がった（もしくは下がった）理由は？」  
「どんな条件があれば一般就労したいという気持ちが今より高くなる？」という問いで、聞き取り調査を行った。その内容は、大きくは以下の通りである。

##### ■ 作業への自信・意欲に関する意見

- ・昨日より上手くなったことで、（スコアが）上がった。
- ・説明時よりモチベーションが上がった。
- ・失敗しなくなったので、少し気持ちが強くなった。
- ・前日に比べて作業量が多かったが、楽しかった。
- ・いろいろな作業を試してみたい。
- ・作業に慣れることができれば自信がつく。
- ・失敗せずに作業ができるようになれば（スコアが）上がる。
- ・作業のコツがつかめたから（スコアが）上がった。
- ・自分で体調管理できるようになれば（スコアが）上がる。
- ・作業体験をしてみて、自分にもできそうと思った。
- ・実習時に質問ができれば、自信につながる。
- ・今の事業所の作業と同じだと思ったら緊張がなくなった。
- ・周りが見えるようになったので、（スコアが）上がった。
- ・作業のペースが上がれば自信がつく
- ・技術が向上した ひとりでもできるんだなと感じた。
- ・作業がうまくなったことで自信がついた。
- ・慣れて緊張がほぐれた。
- ・自分で工夫して作業できた。
- ・集中力が身に付いた。
- ・細かい作業で体を動かす作業だと自分に合っている。好きな仕事だと就職したい。
- ・自分で作業を覚えることができると知ったから自信がついた。
- ・コミュニケーションを図ることができたら、自信が上がりそう。
- ・実際にやってみて作業ができたので、気持ちが強くなった。

##### ■ 企業の配慮や環境についての意見

- ・（企業側の支援者が）親切で、気持ちが続いていく。
- ・作業の教え方が優しかった。
- ・ミスしたことを優しく教えてほしい。
- ・褒められてうれしかったから自信が上がった。
- ・やり方だけでなく、間違ったことも教えてほしい。
- ・雰囲気や環境が良くて安心できた。
- ・相談、質問しやすい環境があれば一般就労してみたい。

- ・仲良くできる人がいれば、一般就労してみたい。
- ・自分に合った作業場の雰囲気が大切。
- ・分かりやすく教えてくれる人がいればできる。
- ・話し相手がいたら働ける。
- ・教えてもらえて作業しやすかった。
- ・静かな環境で、休憩が取れるかが大切。
- ・分からないことを教えてくださる人がいたら働ける。
- ・他のところの環境が分からないと不安。

■ 今後について希望や課題

- ・〇〇（実習先）に就職したい。
- ・他の企業も見てみたい。
- ・面接を受けてみたい。
- ・もう少しチャレンジしてみたい
- ・社会で使う言葉遣い、コミュニケーション能力を身に着けたい。
- ・集中力も上げたい
- ・人付き合いが苦手なので、コミュニケーションに不安がある。
- ・就労移行には勉強するプログラムがあるが、移行に変わる気持ちは50%
- ・就労する経験がないので、もっと経験したい。
- ・他の会社を見てみたいとわからない気持ちがある。
- ・色々な会社を見ることで気持ちは上がると思う。
- ・もっとたくさんの仕事の内容を知りたい、考えたい。
- ・まだまだ足りないところがあるから、ちゃんとできるようになりたい。
- ・今までの訓練を生かしたい。役立てたい。



## 《考察》

第1に着目すべきは、見学会が終了した時点で、全員が「0」以上、つまり「一般就労したい」という意欲を持っているということである。対象者になかには、これまで一般就労への希望を伝えることがなかった者も含まれている。そうした対象者にとっては、この事業への参加そのものが、一般就労への意欲を自覚させる契機になっている。ただし、その意欲が、チャレンジ実習の説明をした時点で下がる者が12名中5名いる。そのうち4名は1月以降に実習を行った者であり、見学会から実習までの期間が空いている。見学会で高まった意欲を維持したまま実習に行けるような日程調整が必要であろう。

第2に、体験実習を通して、意欲も自信も高まっているという点である。実習開始前と3日目終了後を比較すると、ほとんどの者が意欲も自信ともに上がっており、下がった者はいない。この結果は、「実際に企業を体験することで一般就労への意欲が高まる」という本事業の仮説を実証している。

第3に、一般就労への意欲は自信と関係しているという点である。「意欲」と「自信」のスコアを比較すると、一部の者を除き、ほぼ並行して上がっている。聞き取り調査の内容でも、「昨日より上手くなった」「失敗しなくなった」「作業のペースが上がった」ということが、「自信」につながり、その結果として意欲が高まっていることが読み取れる。

第4に、1週間後にスコアが下がっている者がいるということである。調査対象が少ないため、個人的要因なのか、一定の傾向なのかは判断できないが、実習で高まった「意欲」や「自信」を維持するという課題があることを示している。

(参考資料：調査票の見本)

<b>【本人用】</b>		利用者氏名					
<b>Q：あなたは「一般就労」したいと思いますか？</b>							
「一般就労」 したい							
どちらとも いえない							
「一般就労」 したくない							
	見学会後 ( / )	説明時 ( / )	実習開始前 ( / )	実習1日目 ( / )	実習2日目 ( / )	実習3日目 ( / )	実習終了後 ( / )
<p>《記入方法について》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・面談時にご本人に聞き取りを行い、調査担当者が記入してください。</li><li>・「どちらとも言えない」を「0(基点)」として、プラス/マイナスに5段階を設定しています。ただし、数値にはこだわらず、ご本人の主観で構いません。</li><li>・必ず軸が交差する箇所に印をつけてください(軸と軸の間には付けないでください)。</li><li>・目安としては「初めて話を聞いた時点と比べて…」 「前回の聞き取りと比べて…」と問いかけてください。</li><li>・調査の時点は以下のとおりです。( )内に日付をご記入ください。 見学会後 : 合同見学会に参加した日の終了後(もしくは翌日) 説明時 : チャレンジ実習について説明した後 実習開始前 : チャレンジ実習前日もしくは初日の朝、開始前 実習1日目 : チャレンジ実習1日目終了時 実習2日目 : チャレンジ実習2日目終了時 実習3日目 : チャレンジ実習3日目終了時 実習終了後 : チャレンジ実習が終了してから1週間後(もしくはそれに最も近い利用日)</li></ul>							
						記入者氏名	

### 3-2. チャレンジ実習の協力者への質問紙調査

#### (調査方法)

チャレンジ実習が終わった時点で、①実習受け入れ企業の担当者、②参加者が利用している事業所の支援者に、質問紙調査を依頼した。質問内容は別紙のとおりである。

#### (結果①) 実習受け入れ企業の担当者 (回答者 5名)

##### ■ チャレンジ事業を受け入れて、障害のある人へのイメージが変わったか？

選択肢	変化があった	どちらかといえば 変化があった	どちらかといえば 変化がなかった	変化がなかった
人数	0	0	2	3

- ・すでに障害者雇用の枠のなかで働いている人と常に関わっているため、今回の実習で「特に変わった」という見方はない。
- ・一度に受けられる人数に限りがあるので、少ない人数で、回数を分けて実習することを決めておいた方がよい。例 1月 2名、2月 2名、7月 2名・・・
- ・見学会は近隣の支援事業所が一堂に会して行って頂けるのは自分としては効率的で助かりました。
- ・実習については、短期間、短時間過ぎてこちらから判断を求められるのは難しいと感じました。当事者が一般就労するきっかけ・自信になる一助になればと思います。
- ・時期はその時その時で生産の変動がある為、その都度打合せで決めて頂けると助かります。
- ・今回のように3名程度であれば実習も可能だと感じました。
- ・手先をかなり使うので、両手が使える方がよいかなと思います、今回はとても器用に作業していたので全く問題ありませんでした。
- ・今回のチャレンジ実習ではシモハナ雇用の方とチャレンジ実習生の方と一緒に作業を行い実際の業務を学んで頂きました。シモハナ雇用の従業員にも良い体験ができたと思っております。

##### ■ 来年度以降も同様のチャレンジ事業を行った場合、担当者として関わりたいか？

選択肢	ぜひとも かかわりたい	どちらかといえば かかわりたい	どちらかといえば かかわりたくない	関わりたくない
人数	3	2	0	0

- ・この職業に、当施設に深く関心を持っていただけるように、関わっていきたい。
- ・幅広いネットワークを持てることで、「これから繋がる」と考えている。
- ・企業を巻き込んで検討すべきだと思います。

■ チャレンジ事業を受け入れて気づいたこと（自由記述）

- ・ 時期は、その時その時で生産の変動があるので、その都度打ち合わせで決めていただければ助かります。今回のように3名程度であれば実習も可能だと感じました。
- ・ 手先をかなり使うので、両手が使える方がいいかなと思います。今回はとても器用に作業していたので全く問題はありませんでした。
- ・ 実習生の観点からの貴重な意見で初心に戻れるので、実習生としての受け入れは毎回させていただいている。
- ・ 「働くこととは」と前向きな意見交換会ができたので、とても貴重な経験だった。
- ・ 「やってみたいこと」等について、事前にカンファレンス等を行うことで、初日から緊張せず、実習がより充実した内容になったのではないかなと思う。
- ・ 現在働いている障害者と関わる時間があると、より現実味を帯びて、自信にもつながるのではないかなと思った。

（結果②）参加者が利用している事業所の支援者（回答者8名）

■ チャレンジ事業に参加して、障害者の一般就労や移行支援についての認識やイメージに変化があったか？

選択肢	変化があった	どちらかといえば変化があった	どちらかといえば変化がなかった	変化がなかった
人数	4	3	1	0

- ・ 利用者さんが実習を通じて就労への自信を深めたところで、やはり実践に勝るものはないのだなと感じました。こうした事業を活用したり、実習の機会をもっと増やしたいと思いました。
- ・ B型の利用者さんだけでなく、移行の利用者さんを対象にしても良いのではないかなと思いました。実施時期について、年度末は慌ただしくなるので、もう少し早い時期で行っても良いかなと思いました。
- ・ 今回の実習は、実習先まで遠いく交通の便がないことから、通勤を送迎していましたが就職すると自分で通勤しないといけないため、通勤を含めた実習をすることで就職に対するイメージがもっとわかるはずではないかなと思いました。
- ・ 企業にも積極的に受け入れていこうという動きがあることや、事業所内に支援担当者が駐在されている等、障害者支援事業所としても利用者を積極的にまた、安心して送り出せるシステムがあることを知り有意義だった。
- ・ 利用者さん（見学のみ）から就職にはまだ消極的だけれども、みることができ良かったとの感想があった。
- ・ 一般就労の環境を知らないまま不安だけが募るよりは、見学の機会があることは有意義だった。
- ・ 利用者さん（見学/実習）は、実習により課題が明確になった。

- ・ 体験実習の機会が無ければ、もう少し訓練が必要と評価し一般就労のタイミングが遅れたかも知れない。課題に対しての、取組や働きかけ、家庭からのサポート項目の整理に短期集中で取り組めるので有意義であった。
- ・ 参加の時期が良く、参加しやすかった。
- ・ 朝一番の挨拶も、声が大きくなった。(はっきり伝えようと意識されている。)
- ・ 作業前の準備を自ら行うなど、積極性がみられる。
- ・ 今回のチャレンジ事業に参加させて以来、以前に比べ一般就労をしたいという気持ちが高まってきていると同時にモチベーションもあがっておられるように感じます。  
実際、企業に就労体験を行ったことで、企業の雰囲気や仕事の内容を体験することで本人自身、自分の中の気付きや自信に繋がったことが何よりの収穫だったと思います。
- ・ 開催時期に関しては、職場見学の翌月辺りが、時間が空きすぎず良いのではないのでしょうか。
- ・ 貴重な体験をさせて頂きとてもためになった。
- ・ 様々な企業での、障害者の方の働き方、受け入れ方が素晴らしい。
- ・ もう少し情報などが早めにわかるといいと思います。
- ・ 利用者が次のステップ(就職)へ向かう際に、いろいろな方がサポートや携わることで本人のさまたけや考えや思いが出てきて、いい機会だった。
- ・ 全体的には良かった。チャレンジ事業での関わった企業などと、今後どのように関わっていくかなど方向性の説明があれば良かった。実習後のやり取りなど。

■ 来年度以降も同様のチャレンジ事業を行った場合、担当者として関わりたいか？

選択肢	ぜひとも かかわりたい	どちらかといえば かかわりたい	どちらかといえば かかわりたくない	関わりたくない
人数	4	4	0	0

- ・ 業務の都合もあり一存では決められないところはあるが、関わってみたい気持はある。
- ・ 普段の作業より高度な技術が要求されるが、サポート体制もしっかりしていることがわかった。
- ・ 本人との作業内容のマッチングを事前によく詰めておいた方が良かった。
- ・ 見学会の際に、精神障害・発達障害の方をより知ることができたら良いと思った。
- ・ 本人の自信に繋がったようだ。(仕事内容は苦手な作業だったが、3日間で出来るようになったことが自信になった。)
- ・ 実習時期についてはちょうど良かった。どこの事業所もB型において、8～10月は草刈など作業が繁忙期。送迎等を含め支援者が手薄にならざる得ない時期は避ける方が良いと感じた。

### 3-3. チャレンジ実習後の追跡調査

チャレンジ実習の効果を検証するため、本事業が終了する令和2年3月時点で、参加者の状況について聞き取り調査を行った結果が下表のとおりである。

実習前と比較して、変化がなかった者が2名。それ以外の10名は、日常の作業への取り組みが意欲的になる、就職もしくは実習に向けて積極的な意見を述べるといった変化が見られた。また、就職に向けた実習や就労移行支援事業の利用といった具体的な動きにつながっている者もいる。

A	実習終了直後は、周りに実習での経験を話す場面があった。 現在はモチベーションが下がっている様子が見られるが、「また実習に参加したい」という気持ちに変化はない。
B	利用時間が延びたし、日常への作業のやる気が上がっている。 就職の希望が具体化している。 実習で経験したこと（シーツ交換）を生かした仕事をしたいという希望を口にしている。
C	一般就労だけでなく、社会生活についての経験が出来たと本人から感想があった。 今までやりたくないと言っていた内容の作業にも積極的に参加することができるようになった。 他の利用者と話す機会が格段に増えた。
D	今まで以上に作業に参加することが積極的になった。 一般就労したいと本人から希望があり、来年度以降に就労移行へサービス変更を検討している。 出来た！！と自信がついたようで、もっと色々なことへ挑戦する意欲がわいている。
E	就職することにイメージがわいたようで、毎週HWの求人一覧に、興味のある仕事に印をつけ通所される。 もっと実習にいきたいと希望があり、現在調整中ではあるが、更に2ヶ所程度実習を行う予定にしている。 他の利用者（一般就労歴ありの方）へ、企業で働くことについての質問をするようになった。
F	作業内容、作業量、利用時間に変化はない。
G	就職を具体的に考えることが出来るようになった。 就職に向け、チャレンジ実習の実習先で再度、実習する予定。
H	今まで希望のなかった就労移行へのサービス変更の希望があった。 一つの作業だけでなく、多種多様な作業に参加する希望が出た。 初対面の人でも挨拶することがある様になった。
I	作業準備も自分の仕事として考えるようになったとのこと。 作業開始前には準備を行うなどの積極性が見られる。 利用時間はもともとフルでの利用だったため、変わりはない。
J	実習終了後、ご家族と相談支援事業所が集まりケース会議を実施。 実習で課題として指摘された、「コミュニケーション」、「あいさつ」、「身だしなみ」について共有。 大きな改善は見られないが、就職したい気持ちや自信に変化は無い。
K	3月1日から就労移行に移った。 障害者手帳を持っていなかった為、取得に向けて手続き中。 今後、実習を行う予定。
L	作業内容、作業量、利用時間に変化はない。